

問 B. 地図投影法（以下「投影法」という。）について、次の各問に答えよ。

なお、関数の値が必要な場合は、巻末の関数表を使用すること。

問 B-1. 次の 1 ～ 5 の文は、平面直角座標系（平成 14 年国土交通省告示第 9 号）について述べたものである。下線の語句について、正しいものには○を、間違っているものには×及び間違っている箇所の正しい内容を、例に倣ってそれぞれ解答欄に記せ。

（例）平面直角座標系では、日本全国を 18 の区域に分けている。

番号	正しいものには○， 間違っているものには×	正しい内容
（例）	×	19

1. 平面直角座標系に用いることが定められている投影法は、正距方位図法である。
2. 平面直角座標系の X 軸上における縮尺係数は、1.0000である。
3. 平面直角座標系の X 軸から離れた地域ほど縮尺係数が大きくなる。
4. 平面直角座標系において縮尺係数が 1.0001 となるのは、座標系原点から東西方向に約 90 km の地点である。
5. 平面直角座標系において、点 A, B, C, D の座標を A : (0.000, 0.000) , B : (0.000, M) , C : (N, 0.000) , D : (N, M) （ただし, M, N > 0）とおき、この全点を準拠楕円体面上に逆投影したとき、点 A と点 B の経度差と比べて、点 C と点 D の経度差が小さくなる。

〈次のページに続く〉